

令和7年度小松市立栗津小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>児童が主体となって、みんなで活動する学校づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の児童へのアンケート結果を元に、各学年での目標や取組を決める。</li> <li>・毎月の児童集会の活動のふり返りやなかよし議会での話し合いを通して、運営委員会や6年生が主体となって活動を考える。</li> <li>・南部中学校校区で連携し、児童の視点で魅力的な学校づくりに向けて取組を考え、共に実践していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月のアンケートでは、「学校が楽しい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童が94.2%、「みんなで何かするのが楽しい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童が97.1%とどちらも高い数値だった。これらは、各委員会の企画や、6年生を中心とした毎月の児童集会での「お楽しみ会」など、児童が自ら進んで企画し実行した結果だと考える。2学期以降も児童主体の活動を進めていく。</li> <li>・委員会の活動内容を掲示したり、児童集会で毎回めあてを共有したことで、下学年も率先して企画に参加したり、めあてを意識して活動したりできた。</li> <li>・南部中学校校区では、今年度なんぶつ子3カ条のうち「あいさつ」を重点において取り組んでいる。他校の取組も共有しながら、自校に生かしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月のアンケートでは、「学校が楽しい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童が96.2%、「みんなで何かするのが楽しい・どちらかといえば楽しい」と答えた児童が96.2%とどちらも7月に続き高い数値だった。「学校が楽しい」と答えた児童の割合に関しては7月よりも数値が上がった。児童主体の集会や委員会での企画は、今後も継続していく。</li> <li>・帯タイムでの「アワーズタイム」の活動も児童の「学校が楽しい」につながっていると感じた。今後は、その活動を授業等に積極的に取り入れ、「授業が楽しい＝学校が楽しい」につなげられるようにしていきたい。</li> <li>・南部中学校校区の今年度の重点「あいさつ」に関しては、運営委員会を中心にしたあいさつ運動を行うことで、全校児童のあいさつに対する気持ちや姿勢がよくなってきた。</li> </ul>
特別支援教育	<p>児童一人一人の教育的ニーズに応じた教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な特別支援教育を推進を推進するため、コーディネーターを中心に現状を把握、評価した上で、児童の支援策を共有し、継続した支援が行えるよう毎月の児童理解の会や支援会議を通して校内の支援体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童理解の会を通して、校内支援全体にて全職員で児童の実態や変化について共有することができた。必要に応じて校内支援会議を開催した。</li> <li>・特別支援学校からの専門相談員を1学期は6回派遣依頼した。専門相談員に授業を参観してもらい、様々な視点から支援の方向性を探ることができた。学校でできる支援、家庭でできる支援等の助言をもらい、家庭の理解・協力を得ることができた。</li> <li>・児童の教育的ニーズや保護者のヒヤリングを通して、視覚支援や放課後個別学習、通級等の個に応じた支援体制や情報提供を続けていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律の乱れやいじめ問題が心配される学級についての校内支援会議を実施した。</li> <li>・市教委からの担当校訪問を1回、特別支援学校からの専門相談員を2回派遣依頼した。主に特別支援学級での授業や交流学級での授業を参観してもらい、各学級の児童一人一人の見取りを元に具体的な支援等の助言をいただいた。専門相談員同席のもと、保護者と懇談を行い、保護者の思いを汲みつつ、納得してもらいながらその子に合った支援を考えることができ、理解を得ることができた。</li> <li>・個別に支援を必要とする児童に対し、限られた人材の中での支援の仕方を探っていく必要性がある。</li> </ul>
道徳教育	<p>日常生活で生きて働く道徳科の授業づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的、多角的な見方へと広げる指導を目指し、年に2、3回、低・中・高で同じ内容項目を教材研究する場をもつ。</li> <li>・道徳科の学習活動において、授業中の観察や会話だけでなく、振り返りの道徳ノートの記述などを活用し、自身の変容を実感できるように関わる。</li> <li>・児童が学びを実感できるよう、避難訓練や運動会など、様々な行事の折に、道徳的価値を伝えたり、振り返ったりすることを呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み中に低学年・中学年・高学年に分かれる教材研究の場を設けるよう発信した。同じ内容項目を見つけ、ペア学年分の教材研究を行い、授業案や教材教具を共有することで、2学期の授業準備に生かしていく。</li> <li>・全学年で振り返りの道徳ノートを活用している。教師が価値観を押し付けるのではなく、児童の振り返りに寄り添うコメントを継続していきたい。</li> <li>・1学期は行事と道徳の学びのつながりの意識付けが弱かった。2学期には秋の遠足や運動会が控えているので、行事と道徳的価値とを結びつける言葉かけを積極的に行うよう、担当が働きかけていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬休み中に低学年・中学年・高学年に分かれる教材研究の場を設けた。同じ内容項目を見つけ、ペア学年分の教材研究を行い、授業案や教材教具を共有することで、3学期の授業準備に生かしていく。</li> <li>・道徳の授業の中で、地域人材のゲストティーチャーを活用する授業を年間で低学年・高学年各1回ずつ実施することができた。</li> <li>・担当より各学校行事の際の道徳的ねらいを伝え、秋の遠足や運動会、各学年での校外学習、行事と道徳的価値とを結びつける言葉かけを各学年で行っていた。</li> <li>・今後も引き続き、道徳ノートを活用し、教材から離れ、自分自身と向き合うことができる振り返りを実施していきたい。</li> </ul>
体育健康教育	<p>自らの身体や健康に関心を持ち、健康増進にむけた生活づくりを推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの生活習慣や運動習慣について振り返る機会を設ける。</li> <li>・学級担任と養護教諭が連携し、計画的に保健指導を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に4～6年生を対象に行ったアンケートより、体育の授業について「楽しい」「やや楽しい」と肯定的回答した児童は92.6%と多かったが、授業体育以外の運動習慣に関する質問について、「運動しない」と回答した児童37.7%と他の回答よりも最も多かった。</li> <li>・6月にメディアコントロール週間(にこプロ)を実施し、メディアの使い方について家庭で話し合い、めあてを設定し、達成できるように取り組んだ。同時期に実施した生活アンケートより、22時以降に就寝する児童の割合は平日23%、休日39%。朝食欠食する児童の割合は平日11%、休日16%であり、休日に生活リズムが崩れる傾向にある。</li> <li>・4月、6月の健康診断時に養護教諭よりミニ保健指導を実施した。また、6月には各学年に発達段階に応じた歯科指導を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多岐にわたる健康課題把握のため、1学期に実施したにこプロ生活アンケートを拡大し、12月に健康習慣アンケートを実施した。体育や運動を「好き」「どちらかというが好き」と回答した児童が84%と高かった。また、授業外の運動習慣では、「週3回以上」が46%で最も多く、運動量の増加は確認できた。</li> <li>・休日のメディア使用に課題があったため、夏休みにメディアコントロールに取り組んだ。その結果、実施期間の8割以上で目標を達成できた児童が1学期より「約束」で7.7%、「時間」で8.4%増加し、メディアコントロールの意識が向上した。</li> <li>・11月の学校保健委員会では、課題である「歯と口の健康」について児童と保護者が共に考える機会を設定できた。</li> <li>・健康習慣アンケートより22時以降に就寝する児童は平日27%(+4%)、休日41%(+2%)で、休日の就寝時刻が遅くなる傾向がみられた。朝食を欠食する児童は平日11%(±0)、休日19%(+3%)で、休日に生活リズムが崩れる児童がやや増加している。今後も規則正しい生活習慣が定着するよう取り組んでいく。</li> </ul>
情報教育	<p>GIGAスクール構想の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GIGA校内年間研修計画に沿って、TeamsやCanva等の導入、定期的なタイピング週間/グランプリの実施を通して児童のスキルの向上や、端末の効果的な活用を目指し、提案していく。</li> <li>・One Noteを活用しての栗津小プラットフォームを全学年に配備し、算数の足跡やその他学習に必要なアプリケーションへの接続をより直感的に行えるようにし、授業等で活用していきけるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に2週間のタイピング週間/タイピング大会を実施し、児童のタイピング技能の向上を図った。結果、「学校DX推進に向けた目標指数」を対象学年は大きく上回っており、一定の成果が得られたと考える。2学期も引き続き、表彰等を生かした意欲の喚起を行いながら実施していきたい。</li> <li>・OneNoteを活用した栗津小プラットフォームを作成し、全児童に配備した。乱立するアプリケーション(QubenaやTeams)や学習用WEBブラウザ(Canvaやタイピングサイト等)、学びの足跡(算数)へのアクセスが簡単になり、学習効果の向上が見られる。しかし、周知不足で一部の学年でうまく活用されていない実態あるため、引き続き校内研修等で伝えていきたい。</li> <li>・今後、chromebook移行に伴い、端末の効果的な活用研修を2学期以降積極的に行っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期も引き続きGIGA校内年間計画に沿って、タイピング大会を実施した。高学年で平均7文字の入力文字数の向上と誤タイブ数の減少が見られ、一定のタイピング技能の底上げを図ることが出来たと考える。</li> <li>・OneNoteをはじめとした栗津小プラットフォーム(ポータル)の導入は、各教員の思いや要望を取り入れながら①児童用②教員用(学習関係)③教員用(校務関係)の3つを取り入れることができた。前期と比較し、児童用学習ポータルの周知は徹底して行い、活用までもっていくことができたと考える。今後、教員用ポータルの充実を図ると同時に、引き続き活用方法の周知も図っていきたい。</li> <li>・学習用ポータルの普及により、グラフィックデザインツールの「Canva」を登録から周知、普及までつなげることができたと考える。中高学年で、デザインを作成させたり、共同編集、相互参照を行っている様子が見られる。また、授業整理会にも取り入れることができた。引き続き、効果的な活用研修等を実施していきたい。</li> </ul>

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯について治療率、罹患率が悪いのは何故か。町に子どもだけで行ける歯医者がないことや、口腔健康への保護者の意識が低いことが考えられる。</li> <li>・社会的なルールや自分のやりたい事をどちらを優先するかジレンマがある。場面ごとの大事なことは何かを見極めることが必要である。</li> <li>・世の中が親切で、全部が学校で体験しなくてはいけないものではない。子どもが自分から動く力に本当になっているのか疑問である。</li> <li>・いじめを発見して対処しているのが良い。喧嘩やトラブルは昔からあったことで、多少はあってもよいと思う。それを解決する力が大切である。それに関連して子どもは放課後など習い事等で忙しく、社会性を育む場所や機会がない。昔は遊びの中で育むことができたが、現代では難しいことが課題である。</li> </ul>
---------	---